

本町田ひなた小学校の校歌の地名部分に関する歌詞の修正案について

校歌の歌詞で用いた地名について、第 7 回推進協議会にて委員の皆様から様々な意見をいただきました。校歌を決定するにあたり、当日、意見を伺えなかった委員の皆様にも、後日、事務局でヒアリングを行い、意見を頂戴したところです。

そして、委員からいただいた意見等を山田准教授にお伝えし、見解を伺ったうえで、3 校長と事務局にて協議を行いました。

その結果、校歌の歌詞の地名部分については、新たな歌詞とすることに 3 校長と事務局にて方向を整理しました。つきましては、歌詞の修正案について、改めて委員の皆様の意見をお聞かせください。

1 委員からの意見について

主な意見は以下のとおりです。

①「滝の沢」について	◆子どもたちに馴染みがあるのは「滝の沢」ではないか。 ◆「滝の沢」に馴染みがある。子ども達が小さなころから、夏になると生き物採取で、とてもお世話になっている公園。
②「井出の沢」について	◆自身が子どものころから馴染みがあるので、「井出の沢」がよい。 ◆地元としては「井出の沢」に馴染みがある。
③地名を使わない案について	◆地名を使わない案を考えてはどうか。 ◆どちらの地名にするか選ぶのは難しい。みんなの気持ちを叶えられるような形にすることはできないか。

2 山田准教授の見解

作詞いただいた玉川大学の山田准教授に、協議会等で挙げた意見を事務局から伝えたところ、次のとおりの見解でした。

- ◆委員からの意見を受けて、「地名を含めない新たな歌詞」を考えたいと思う。
- ◆「新たな歌詞」については、「滝の沢」、「井出の沢」等の地名を連想することができる歌詞にしたいと思っている。

⇒ 1 と 2 を踏まえ、3 校長と事務局で協議を行い、新たな歌詞の制作を改めて山田准教授に依頼しました。

3 歌詞の修正案について

本町田ひなた小学校 校歌（1 番抜粋）

ひなたの丘を 丸く包む 地球の青

黒くうろう 大地をふみしめ

いま わたしは この時代を生きる

滝の沢 薬師池 恩田川

→ （修正案）湧き出ずる たたえる恵み 流れゆく

ふるさとの水 いのちの鼓動

ねがいをつないで とともに歩もう

※修正案の解説について

1 行目の「地球の青」と水のイメージを呼応させて、湧水公園のある滝の沢、歴史的な湧水である井出の沢を「湧き出ずる」、薬師池を「たたえる恵み」、恩田川を「流れゆく」という言葉で表しました。この三者の関係は、一滴から流水へとスケールが大きくなる順序であり、且つ「流れゆく」を最後に置くことで、「いま」と3番で描く「いつか（未来）」が時の流れでつながるようにしています。

昔から、河川等の水源によって市町村等の「区切り」や「境」が引かれました。この地球に境界線を引いているのは人間です。作詞にあたり、校区の境にある滝の沢や薬師池に思いを馳せたのには、大きな意味があります。新たな校区に新たな境界線を引いて「端」や「中心」を認識するのではなく、これら境にあるものを「全体の大切な一つ」と見るようになることで、「心のなかに境界を引かない・境界を温かく見る」という寛容さの醸成を願いました。

4 歌詞の修正案への意見募集について

1～3を踏まえまして、歌詞の修正案について、委員の皆様の意見を伺わせていただければと思います。別添「回答書」に意見を記載のうえ、8月23日（金）までに事務局までご提出ください。

書面開催の結果等を参考に、3校長と事務局の協議のうえ、3校長が9月中に本町田ひなた小学校の校歌を決定いたします。結果については、11月5日（火）の推進協議会にてご報告いたします。